



今月のテーマ

## 栄養不良はどうやって判定するの？

身体の大きさの変化は個人や集団の健康や栄養の状態を反映します。そこで、栄養状態を判定するために身体測定が行われますが、その目的によって、測定する指標が異なります。たとえば、急性の栄養不良である『消耗症(wasting)』の子どもを判定したり短期的な栄養状態の変化を知るためには【対身長体重比(weight-for-height)】という指標を使います。一方、長期的な栄養状態の変化を知るためには慢性栄養不良である『発育阻害(Stunting)』を【対年齢身長比(height-for-age)】という指標で判定します。このように、年齢、性別、身長はその個人の身体的特徴に関する情報の一部ですが、これらを組み合わせることでその人の栄養状態に関する重要な情報になります。そのほかに、上腕中央部周囲(MUAC)や圧痕浮腫(Oedema)を測定する方法もあります。これらを正確に測定するためには標準化された機材と方法が決められていて、測定された結果は「準拠集団(Reference population)」とよばれる統計的にランダムに選ばれた健康な人口データと比較し、それとどのくらい違うかによって栄養状態を判定します。

### 連続ワークショップ



2015年7月31日、ワークショップ「国際栄養の現状と課題(第3回)(栄養調査の基礎と実践)」が開催され、NGO、コンサルタント、大学などから約20名が参加しました。今回は栄養調査のための目標設定、プロセス、測定方法、データ管理、分析、報告書作成と結果の解釈について、事例や演習をまじえて学びました。

2016年3月11日、ワークショップ「国際栄養の現状と課題(第4回)(自然災害と栄養改善)」は、参加者約22名が自然災害における栄養問題に対処するために何をどうしなければならぬのかについて基礎的な理解力を養うため、事例や演習をまじえて学びました。

### 研修・講義

JICA課題別研修「母子栄養改善」:SUN参加国の行政官を対象に、自国・担当地域にて母子栄養改善プログラムを計画、実施、管理するために必要な知識と能力を強化することを目的とした研修で、NAMは「栄養サーベイランス」、「栄養のモニタリング評価」に関する研修をファシリテートしました。

2015年10月13、14日にJICA能力強化研修「栄養改善人材成(マルチセクターアプローチに向けて)」、11月9、16日に女子栄養大学で、アフリカの栄養状態やマルチセクター連携支援の講義を行いました。

### その他

外務省による海外スタディプログラムの助成をうけ、研修コース「Professional Short Course in Nutrition in Emergencies (NIE)」(2015年10月5~16日)を受講し、緊急人道援助の現場で必要とされる知識・技能を学びました。今後、学んだ知識や技術を日本国内外のNGOや国際援助関係者に還元する方針です。

### ポジティブ・デビアンス

2015年11月13日に、東京大学において「ポジティブデビアンス実践ワークショップ」がおこなわれ、NAMも共同ファシリテーターを務めました。海外から、タフツ大学栄養科学政策大学院客員教授で、「Power of Positive Deviance」の共著者であるモニック・スターニン(Monique Sternin)、開発コンサルタントのサム・スターニン(Sam Sternin)、ネパールのユニセフ栄養担当官のアニルドラ・シャルマ(Anirudra Sharuma)の3名が招かれ、参加者はNGO、コンサルタント、大学、自治体、民間企業などから約50名でした。



### グローバルフェスタ

2015年10月3~4日の2日間にわたり、お台場のセンタープロムナードで「グローバルフェスタJAPAN2015」が行われ、NAMも初めて出展しました。今回はボランティアの方々に参加していただきながら、「世界の栄養問題を考える」というタイトルのクイズ形式で実施しました。発展途上国の問題はとすれば遠い国の



出来事でわかりにくいと思われがちですが、なるべく分かり易い言葉や方法を通して伝えることで、栄養不良問題を身近な問題として考えてもらうきっかけとしていただけたと思います。また、来場していた栄養士や援助機関の方々とお会いできました。

### 今後の計画

連続ワークショップ「国際栄養の現状と課題」が継続的に開催されます。また、【世界栄養報告書】(2015年版)の発表セミナー(4月25日)に協力します。その他、研修・講義、地域の国際協カイベントなどでの出展や出前セミナーなど、いろいろな形で活動を行います。